

# 「作ってみよう自分だけのマスクケース～放課後等デイサービスとの関わり～」

指導教員：助教 中村 尚紀

担当学生：池森 美穂、竹島 光志朗、瀬口 日和、原 萌依奈、東 蓮太

## I. 目的

放課後等デイサービスの利用児は、コロナ禍により、生活する中で敏感になりストレスがたまりやすい状況になっている。そのストレスの緩和を図るため学生や利用児同士でのコミュニケーション図りながら相互作用による刺激でストレスの緩和を行いたい。

その方法として、現在社会はコロナ禍により、マスクの需要が高まり、マスクの持ち運びをする機会が増えた。しかし、マスクの収納場所に困る人が多くおり、放課後等デイサービスの職員も利用児がマスクを様々な場所に置いてしまう現状を聞き、今回はマスクを収納できるマスクケースを身近な物で作成することを企画した。

放課後等デイサービスの利用児と一緒に作業することにより、子どもならではの豊かな感性で作ってもらうことができる。また、マスクケースを作ることが遊びの一環だと思ってもらえれば、個人の自発性を刺激することができる。利用児と学生と一緒にすることで、意見交換のコミュニケーションや、互いに助け合ったり褒め合ったりする場面が増える。そして、自分ならではのオリジナル作品を作ることによって自分自身の才能に自信を持ってもらうことで、自尊心を高めることができると期待される。

## II. 方法

放課後等デイサービスの利用児とマスクケースを作る提案を実施するため、放課後等デイサービス「チャレンジャー」に12月1日に事前打ち合わせで事業所を訪問し職員から利用児の特性等を聞いた上でマスクケースづくりの日程調整等を行い12月14日にマスクケースづくりを実施した。

活動前に利用児と関わるため、文献等でグループで事前学習を行い発達障がいの子どものコミュニケーションのポイントを押さえた。例えば、コミュニケーションをとる上で視線を聴き手に向けることや端的な指示、抑揚があったり、言葉の説明だけではなく数字を入れて見通しを持たせたりするなど、作業を円滑に進行できるよう工夫した。

## III. 結果

今回の活動を通し、利用児は自ら参加し、全員マスクケースを完成させることができた

め、利用児の自尊心や自発性を高めることができた。これは菊池ら（2007）の「他者の指示に従えず、課題を最後までやり遂げることができない。」と述べている発達障がい児らが苦手にする特性を克服するため、活動時に課題を細かく分けて取り組むこと（スモールステップ）で全員が完成させることができたと考えられる。

マスクケースを完成させる中で、利用児や学生同士でのコミュニケーションをとる場面が多くあり、利用児たちが積極的に活動できる場を作ることができた。作ったマスクケースはどれもオリジナリティがあった。利用児はできた作品を職員や学生に自ら積極的に見せ、その表情は笑顔で自信に満ち溢れていた。

#### IV. 考察

発達障がい児の特性を考え、長時間の作業や規則に縛られた中での活動は利用児たちの負荷になる恐れがあるため、短時間かつスモールステップで成功体験を随時経験ができるよう計画性を持ったことで時間内にマスクケースを全ての利用児が完成させることができた。これは、土台として利用児一人一人の特性を把握した上でマスクケース作りを行った。この点に関しては、例えばバイスティックの7原則の一つである「個別化」の実践に繋がる。個別化による利用児の特性を把握をしたことでグループでのお互いの刺激を活かしながら利用児同士が成功体験を共有しグループの凝集性が高まり、利用児一人ひとりに合わせたペースで作業が可能となった。その結果利用児の自発性や自尊心を強化することができた。

#### V. まとめ

今回の活動を通して、放課後等デイサービスの利用児のストレス緩和することができた。また、マスクケースを作ることによって、個人の自発性を刺激したり、自尊心を高めたりすることができた。そのことから、余った材料を自宅に持ち帰る利用児もいた。

今後も利用児の自発性や自発性を高める企画を放課後等デイサービスの職員と協働しながら実践していきたい。

#### 参考文献

- ・ shizu (2013) 「発達障害お子どもを伸ばす魔法の言葉かけ」
- ・ 榊原洋一 (2011) 「よくわかる発達障害の子どもたち」
- ・ 佐藤奉正 (1997) 「障害児の心理」
- ・ 竹田契一、里見恵子、西岡有香「図説 LD児の言語・コミュニケーション障害の理解と指導 ～AD/HD・高機能広汎性発達障害とどう違うのか～」
- ・ 竹田契一 (2006) 「AD/HD・高機能広汎性発達障害の教育と医療 ～どこでつまづくのか、どう支援するのか～」
- ・ 宇佐川浩 (1998) 「障害児の発達臨床とその課題 ～感覚と運動の高次化の視点から～」

- ・ 太田昌孝（2002）「発達障害児と心の行動」
- ・ 中村満紀男、荒川智（2003）「障害児教育の歴史」
- ・ 小田次郎、上野一彦、藤田継道（2007）「よくわかる発達障害【第2版】LD・ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群」
- ・ 内山元夫（1999）「子どもたちの福祉施設 ～人間的成長と自立を目指して～」
- ・ 井口祥子、山田智子（2007）「ADHDの子どもへのサポート&指導事例集」